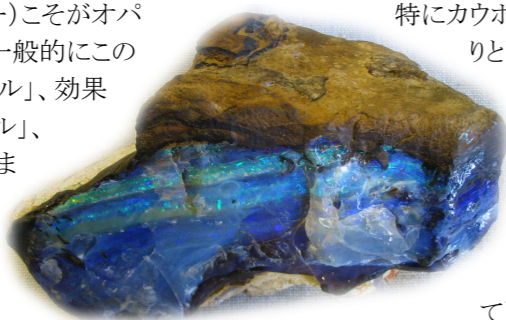
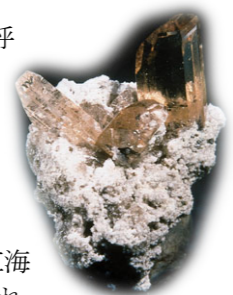


変化するこの遊色現象(プレーオブカラー)こそがオパール最大の特徴であり魅力と言えます。一般的にこの遊色効果のあるものを「プレシヤスオパール」、効果のなく色がきれいなものを「コモンオパール」、有色で濁ったものを「オパライト」と総称します。またオパールは、かつて石が医薬品として用いられていたチベットにおいては、ターコイズ、パールと共に三大医石として珍重されていたそうです。ローマ時代には「オルパス」、中世には「オプタルミオス」(目の石の意)と呼ばれ、細かい手仕事をする際にお守りとして、月桂樹の葉につつんで身に付けていたという話もあります。この石言葉は「安楽、忍耐、悲哀を克服して幸運を得る、希望、無邪気、潔白」などと言われています。



11月 トパーズ

トパーズは和名では黄玉(おうぎょく)と呼ばれ、一般的には黄色の宝石というイメージがありますが、ピンクやオレンジ、淡緑、ブルー、紫、透明など様々なトパーズもあります。「トパーズ」という言葉自体は、ギリシャ語の「探し求める」に由来しており、トパーズが豊富に採取されていた紅海にあるトバズ島は、いつも深い霧に包まれ、探すのが大変困難だったことから、島に埋まっている宝物のことを「トパーズ」と呼ぶようになったという説があります。このようなことから、探求心を高める宝石とも言われています。古代ローマでは黄色や黄金色(太陽神の象徴)が好まれており、金の指輪をよりいっそうきらびやかに見せるトパーズは大変好まれたと言います。また、トパーズにはトルマリンと同様に磁気を帯びているため、「心身の緊張を解き放ちストレスを和らげ、安眠へと導く」効果があると言われ、中国では「トパーズ=美と健康を促進する」のジンクスがあり、「安眠=夜に熟睡出来る=肌や健康に良い=美と健康の促進グッズ」と解釈されたようです。この石を象徴する石言葉は、「友情、友愛、希望、潔白」などがあります。



12月 ターコイズ(トルコ石)

ターコイズ(トルコ石)は、人類が最初に掘り出した宝石のひとつです。古代から神聖な石とされ、エジプトやチベット、ペルシャなど各地の逸話にも、登場しています。トルコ石を用いた装飾品で最も古いものは、紀元前3000年のエジプトのお墓から発見されています。また、古代のペルシャの王国では、首の周りや手にこの青色の宝石をつけることで、不慮の事故を避けられるといった言い伝えにより、トルコ石が珍重されていたようです。ネイティブ・アメリカンは、太古から命に力を与える石、天地自然との対話を可能とする「霊石」として大切にされてきました。現代アメリカ人にとっても、とても身近なパワー・ストーンですが、



特にカウボーイやカウガールが落馬を避ける為のお守りとして乗馬の際に身に付ける時の必須アイテムとなっているようです。また、チベットの辺境には、トルコ石が貨幣がわりに使用されていた地域もありました。トルコ石というからには、トルコが産出国なのだろうと思いがちですが、実はそうではなく、シルクロードの産品と共にトルコを経由してトルコ商人によってヨーロッパに広まったために、この名が付けられたと言われています。この石を象徴する石言葉は「成功を保証、旅の守護石」などといわれています。またターコイズは、人に贈られた物の方が、石の効用が増し本来の力が十二分に発揮されるといわれています。



誕生石のいわれは、神話や言い伝えなどで、本当に定かではありませんが、またそれが神秘的でロマンティックな気分を盛り上げてくれるような感じがしませんか？地中に眠っている間に様々な物質が混ざり合い条件が整ったことでできる美しい宝石たち。そのエネルギーは、やはり私たちの心や体にも影響するものがあるでしょう。ただ眺めているだけでも幸せな気持ちにさせてくれるのですから。宝石ではないけれど「パワーストーン」という観点から見れば、最近温浴施設でポピュラーになった岩盤浴も、遠赤外線とマイナスイオンが発生する種の自然の鉱石や堆積土から得られるプレート(またはそのままの岩盤)に熱を加え、その上に横になることで体に温熱効果を期待する湯水のない温浴法であり、これも一つのパワー石の効能といえます。マイナスイオンは森林浴や滝にも含まれることは有名ですが、これが豊富にあると、血液の浄化作用、細胞の賦活作用、抵抗力の増加、自律神経の調整などの効果があります。私たちは、周りをとりまく自然環境のエネルギーと、常に影響し合って融合して生きているということですね。



編集後記

最近遠出することが少なくなったので、近所にお出かけをするときにも少しおしゃべりを楽しんでいます。パール、ムーンストーン、シルバーなどいくつかあるペンダントを選んでつけただけでも、女性らしい気分が湧き出てうきうきします。中でもやはり、私の誕生石であるトルコ石はお気に入りのひとつです。

Import Life Times

2010年3月号

発行者 ワールド・インポート・サークル
発行日 2010年2月25日
発行所 横浜市青葉区みたけ台1-19



インポート・ライフ・タイムス

先月にご紹介した、マラカイトの壁掛けがとても人気があったため、今回の特集は『石』について取り上げてみました。実は人間の生活文化の中の石は、古く石器時代の頃から槍や包丁などの道具として使われていたほかに、石をお守りとして身につける風習があり、自然が何十何千何万年もかけてできた鉱物などに宿る神秘のエネルギーが、私たちの精神や肉体、運勢に影響するパワーがあると考えられていました。今ではそれは『パワーストーン』と呼ばれ、その種類も多種多様にあり、皆さんの中でも身につけている方がいらっしゃるのではないのでしょうか？例えば気候の変化でだるかったり調子が良かったりする体調変化は、まさに自然環境のエネルギーが影響している証拠、石の持つエネルギーもそうなのでしょう。



誕生石の由来

今回は、数ある石たちの中でも、特になじみの深い誕生石について、世界各地におけるエピソードなども交えながらご紹介していきます。

誕生石の起源は、ユダヤ教の聖典でもある旧約聖書と大いに関わっているようです。その後、キリスト教と宝石(時代背景的に当初十二部族の象徴だった物が後に十二使徒の象徴へと変わる)の関わりも聖書により、より深く、のちにキリスト教の布教と共に各地に普及し始めましたが、当初は12個の石を全て所持し12個の石のなかでも特にその月にパワーの強い石をマンス・ストーンとしてその月のお守りとしていたようです。その後、生まれ月の石を一年間通して持つようになっていったようです(一説には、18世紀のポーランドに始まり世界に広まったとも)。しかし今の「誕生石」として本格的に浸透していったのは、ずっと先の1912年(大正元年)、アメリカ宝石組合のユダヤ人宝石商達によりアレンジされ、宝飾(特に高価なダイヤモンドが中心)の宣伝方法のひとつとして定められたものが基準になっており、この当時のアメリカの結婚適齢女性の月別人口比率と照らし合わせて制定されたものだと言われています。例えば4月が一番人口が多かったので、一番高価なダイヤモンドを誕生石にして宣伝した、といった感じです。これを初めて知った私は、ちょっとショック！を受けました。しかし、このような商売の戦略を知ってしまっても、例えば土用のうなぎの日、とかバレンタインデーとかいうイベントなども、宣伝戦略だということを考えると、自分の誕生月に定められた石というだけでも、なんだか特別ないとおしい感情を抱いてしまうのは私だけでしょうか？どのようなきっかけでも、何にせよ、自分の気持ち次第で楽しさも幸福感も倍増しますよね。何はともあれ、そんな事情で制定された誕生石とは、1月 ガーネット、2月 アメシスト、3月 ブラッドストーン又はアクアマリン、4月 ダイヤモンド、5月 エメラルド、6月 真珠又はムーンストーン、7月 ルビー、8月 サードオニキス又はペリドット、9月 サファイア、10月 オパール又

パワーストーンとは？

パワーストーンとは、簡単に言うと不思議なパワーを持った石達のことですが、特別不思議な石が存在するのではなく、宝石から道端に転がっている石ころまでもが、エネルギーを発するパワーストーンといえます。長い年月をかけて育まれたこれらの石は、世界中で様々な歴史や言い伝えを持ち、災いを防ぐお守り・儀式的道具・病を治療する薬として用いられてきました。石の歴史はとても深く、西洋ではジブシーや白魔術、黒魔術といった儀式的道具に使用されたり、ツタンカーメンの黄金の棺にはラピスラズリがはめ込まれていたり、アメリカでは昔からインディアンがお守りとして身につけていたのだそうです。そして、アメリカのホワイトハウスの下には、世界平和を願って水晶が埋められていることも有名です。また東洋では、パワーストーンを風水に取り入れたり、チベットやインドでは癒し効果があるとされ愛用されたといわれています。日本でも、縄文時代に作られたであろう勾玉(まがたま)は水晶や瑪瑙で出来ていますし、現在でも水晶をご神体とする神社があります。現代では、パワーストーンは自身の願いに当てはまる石を持つことにより、悪い気を打ち消してくれたりパワーをもらったりと、その人の意思に応じてくれ、開花していない自分自身の潜在能力を増幅させて良い結果へと導くといわれています。

はトルマリン、11月トパーズ、12月トルコ石又はラピスラズリとなっています。この基準をもとに、国ごとに多少違いがありますが、それはその国の習慣や伝統、時代の流行、そしてどんな石が手に入り易いか等の理由によるものだと考えられます。日本でも、3月に珊瑚、5月に翡翠を追加して誕生石と定めています。次に、この誕生石についての歴史や石言葉などを調べてみました。

1月 ガーネット

ガーネットの語源は、ラテン語の「グラヌス=種を無数につけたもの」といわれおり、赤色の丸い結晶が集まった形で産出されることが多く、最初にこの鉱物を見た学者が果物の石榴(ざくろ)を連想し、名付けたといひます。日本でも「柘榴(ざくろ)石」とも呼ばれています。このためガーネットは、その結晶のイメージ「無数に付けた真っ赤なザクロの実」を象徴するかのようになり、「持ち主に実り豊かな人生をもたらす石」の代表格として伝えられています。時代を超え国境を越えて、世界的な栄華を誇っていた名家といわれた一族達が、その一族の「血と実り」の象徴としてガーネットを装飾品や丁度品、護符、紋章として用いているのだそうです。またかつて、十字軍の兵士達は戦場に赴く際、この石を肌身はなさずつけていた、という話も有名です。さらに宝石以外にもガーネットは、細かく粉砕してヤスリの原料としても活用されています。

この石を象徴する言葉は、「真実、忠実、友愛、貞操」など。ネガティブな感情を消し去り、自信とやすらぎを与えてくれる石といわれています。また、その赤色からか、止血効果や血行をよくし、リウマチや関節痛の緩和作用があるとされたり、心臓病や体内に滞った毒素を排出する為の治療に用いられた歴史があるため、循環機能を促進し、生命力を高めるといった効果があるようです。

2月 アメジスト

日本名を「紫水晶」と呼ばれるアメジストは、読んで字の如く紫色のクリスタル=水晶のことです。このアメジストは、ギリシャ語の「アメテュストス=お酒に酔わない」が語源になっており、昔から、暴飲暴食や悪酔いを防ぐ護符として、好んで持ち歩かれました。中国では晋から唐代に強壯強健の薬として用いられてたそうです。またキリスト教では、「酔わない」=「人生に酔わない(悪酔いをしない)」=「心の平安」と結び付け、加えて紫という「高貴な色」ということもあり、「司教の石」とされ、お守りとして祭事に用いたようです。

この石を象徴する言葉は「誠実、心の平和」など、人の意見に振り回される(酔う)事無く、冷静に意見、判断が出来る自分を思い出させてくれたり、魔よけのお守りとしてネガティブなパワーを吸収してくれるとも言われています。

3月 アクアマリン

淡いブルーで透明感のある、繊細な印象を持ったアクアマリンは、ラテン語で「アクア= aqua=水」と「マリン=marine=海」、まさにきらきら輝く美しい海の色がその名前の由来です。古代ローマをはじめ中世ヨーロッパでは、船乗りは航海の安全を願い、そして漁師は豊漁を願い、アクアマリンをお守りに身につけて船出したといわれています。この石を象徴する言葉は「沈着」「聡明」「勇敢」などで、直観力を高め、方向感覚や自己表現能力を高めたり、目の病気や肝臓障害、歯痛への影響力を持つともいわれています。

4月 ダイヤモンド

ダイヤモンドはその美しい輝きから、身に付けているだけで幸運を招くとされています。語源は、その一番硬い特質をもつことからギリシャ語の「アダマス= 征服されないもの」という言葉が変化して「Diamas」→「Diamant(後期ラテン語)」→「Diamond」となったという説が有効です。古来より、邪気を祓う強い魔よけの力があるとされ、「不屈、不敗の象徴」として、護符などとして用いられていたといひます。ダイヤモンドが宝石として重宝されるようになったのは、16世紀後半、研磨の技術が確立されてからのことですが、婚約指輪にダイヤモンドが定着したのも、その美しい輝きのほかにこの邪気を払い運を好転させる象徴の石でもあるからだといわれています。

5月 エメラルド

女王クレオパトラがこよなく愛したと言われるエメラルド、その語源は、「緑色の宝石」を意味するギリシア語の「smaragdus」が、フランス語で「esmeraude」となり、やがて英米にも伝わって「emerald」と呼ばれるようになりました。その深く、鮮やかで神秘的な輝きから、古代人はこの石に超自然力を感じ、人の心に安らぎを与える貴石として崇拝していました。「エメラルドと人間に傷のないものはない」ということわざもあり、内部に特有の傷が無数にあるものが天然ものの標識ともなっており、非常にデリケートな宝石です。

この石を象徴する言葉は「幸運、幸福、精神の安定」などで、災厄から身を守り、悩める心に安らぎと希望を与えてくれるともいわれています。また、天然エメラルドの新緑を思わせる独特の緑色には目の疲れを癒す効果があるといわれ、古代ローマの宝石職人は目が疲れるとエメラルドを取り出しじっと見つめていたそうです。確かに、緑は中庸を表す色で、精神を穏やかにさせてくれる色の効果もありますし、パソコンや読書などで目が疲れた時に、緑生い茂る木々を見ると少し疲れが癒されますよね。

6月 パール

無機質の鉱物から生まれる宝石群の中でも、コーラル(珊瑚)と同様、有機物である貝の体内の中で誕生するパール(真珠)。様々な色合いを見せてくれるパールの色素は、貝の体

内に入った異物を核としてカルシウムの結晶がたんぱく質で接合され多層化することで真珠層が形成されています。多くの宝石が研磨を必要とされているのに対し、パールはアコヤ貝やコクチョウ貝、シロチョウ貝などから採取された段階で、すでに完成された宝石のような光沢と美しさを持っています。その美しさから古く愛されている宝石で、ホメロスの詩や中国の『書経』、日本の『古事記』『日本書紀』『万葉集』などにも「しらたま」として登場しています。エレガンスで高貴なその輝きから「美のシンボル」や「月の雫」「人魚の涙」など様々な愛称で形容されてきました。またパールは、不老長寿の象徴としても世界的に有名で、中国では不老長寿の神様(麻姑=マコ)の伝説「神仙伝」等多くの書物に記述され、特に淡水パールは、仙人が不老長寿の媚薬として飲用していたといわれ、今も漢方に取り入れられています。楊貴妃は、いつも口には唾液で飲み干していたそうです。その他にも、「日本書紀」では神と漁師の伝説があり、真珠は富の象徴に繋がっているようです。その他「パール=処女性の象徴」というのがありますが、これは中国の八仙人で唯一女神である何仙姑(女性の守護神)は処女神で、パールとヒスイを飲んでいたとされていることや、処女王としても知られていたイギリスのエリザベス1世がいつも身につけていたのがパールであったりというエピソードから成り立っていったいわれであることがうかがえます。ゆえに、パールは「社交界デビュー記念石」という石にも選ばれていて、新しい門出を祝う宝石としてふさわしいのが、純潔と処女のシンボルであるパールであるとされているのです。今現在、日本は自ら開発した養殖技術によって世界のアコヤ貝の9割を占める輸出大国になっており、あまり宝石を産出しない我が国が唯一世界に誇れる宝石といえます。そのようなパールを象徴する言葉は、「健康、富、長寿、美」などです。

7月 ルビー

世界的にダイヤモンドの評価を上回る宝石は無いに等しい昨今ですが、実は、ダイヤモンドと人類の関わりよりも、ずっと古くから関わりを持ち、そしてダイヤモンドよりずっと高い評価を得ていた宝石がルビーです。その語源は、赤をあらわすラテン語の「ルベウス」から。サンスクリット語では「ラトナナヴァーカ(宝石の王)」とよばれ、インドの占星術においては、太陽の石として重要視されていました。インドの人々からは「絶対的な富や権力・幸せをもたらす象徴」として愛し大切に、他のどんな宝石よりも高い評価を得ており、粉にしたルビーを服飲することにより、恐怖心を取り除いてくれ快感を倍増させてくれる媚薬として珍重されていたり、風邪と肝臓の治療薬としても用いられていたようです。

そのようなルビーを象徴する言葉は「情熱・威厳・仁愛」など

で、ギリシャ・ローマ神話より「軍神マルス」が宿る石とされ、勇気と自信を高め、人生の様々な戦いに勝利をもたらす石とされています。

8月 ペリドット

ペリドットとは英語で植物のオリーブに似たさわやかな黄緑色をしていることから名付けられたのですが、日本語に訳する際に中国原産の常緑樹である「橄欖(かんらん)」と取り違えて訳されたため、日本名を「橄欖石=かんらんせき」といひます。盛夏にさしかかる頃の7月には真っ赤な太陽が、少し秋めいてくる8月には、金色の輝きに変化し始めることから、ペリドットが8月の誕生石に選ばれたようです。鮮やかでもあり人を和ませる明るいグリーン色のペリドットは、古代エジプトの人々にこよなく愛され、ファラオたちのゴールドの王冠や装飾品を埋め尽くし、それらを輝かせていたようです。

この石を象徴する言葉としては男女の愛が絡んだクレオパトラが生きた王朝のエジプトを象徴する石であることからか、ペリドットにちなんだローマ皇帝の愛妻話からか、この石特有の爽やかなグリーンが持ち主の色欲を抑制させる働きをするからなのか、「夫婦の幸福、和合」などが石言葉としてあげられています。

9月 サファイア

サファイアは、青を意味するラテン語の「sapphirus」が語源といわれています。古代ペルシア時代にその神秘的な落ち着いた青色が聖職者に好まれて指輪として身につけられるようになり、以後「聖なる石」とみなされるようになりました。また、その色から、古代インド、ユダヤ教徒、キリスト教徒など、世界のあちこちでサファイアのイメージは、神の住む「天」を象徴する神の代弁者のごとく、そして聖霊の宿る石であるかのごとく扱われ、書物や伝承により語り継がれ、身につけられています。かつてのローマ法王、シクストゥス4世は、300カラットもの大きなサファイアの指輪をはめていたそうです。また、皇帝や聖職者の石といわれていたもうひとつの理由は、色欲を低下させ、浮気を見破る力がある石だからという逸話も残されています。

このようにサファイアには、神から授かった知恵と愛、そして予言力が備わっていると考えられ、聖職者が身につけていた石のため、この石を象徴する言葉は「慈愛・誠実・徳望」などといわれています。

10月 オパール

オパールは非常に日本で好まれている宝石であり、ミルク地に虹色の輝きをもつものは人気が高く希少価値があります。文豪シェークスピアや詩人ボードレーの作品の中で、幻想的で個性的な美しさの象徴として、変幻自在の形容詞として登場するオパールですが、その語源はサンスクリット語の「ウペラ(貴重な石)」から由来しています。見る角度によって多彩に